学校番号	T3017

令和８年度　学校設定教科

教科	（学）チャレンジ	科目	（学）経済的自立Ｃ	単位数	１単位	年次	３年次（４年制）
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

生計を立てる方法も多様化の時代となっている。本授業では、社会を生き抜けるよう、「将来、経済的に自立し、豊かな人生を送るためのスキル」を身につけることを目的とします。座学だけでなく、疑似株式運用や屋台運営といった具体的なビジネスシミュレーションを通して、お金の流れ、利益の構造、リスク管理、そして働くことの意義を体験的に学びます。これらの活動を通じて、社会人として求められる計画性、協調性、そして目標達成に向けた「稼ぐ力」を養いましょう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
インフレ・デフレが資産に与える影響や、経営指標（損益分岐点など）を応用的に理解し、不確実な経済状況下でのデータ分析を行うことができる。
【思考力、判断力、表現力等】
市場動向や競合の状況を予測し、複数の選択肢からリスクとリターンのバランスを考慮した戦略的プランを構築し、その妥当性を説得力を持ってプレゼンできる。
【学びに向かう力、人間性等】
経済活動における社会的責任（CSR）を意識し、チームの課題解決のためにリーダーシップを発揮したり、改善案を主体的に提案したりする姿勢を持つ。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	屋台運営における予算作成、株取引シミュレーションにおけるポートフォリオ構成など、実践的な経済活動に必要な知識と計算能力を正確に適用できている。	屋台運営での課題（例：原価高騰）に対し、多角的な視点から解決策を検討し、根拠をもって改善提案を行うなど、経済的な判断力を発揮できている。	チームでの役割を自覚し、屋台の企画・準備・運営に献身的に取り組み、失敗から学びを得ようと粘り強く努力する姿勢がみられる。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
集中講座	基礎経済と金融	・お金の歴史、金融の基本、インフレ/デフレの基礎知識。 ・株式、債券、為替の基本とリスク分散の考え方。 ・仮想の資金を使った株式運用シミュレーションを体験し、運用の記録と分析を行う。	a: 経済テストで、景気変動が資産価値に与える影響など、応用的な概念を説明できている。 b: 運用レポートで、ポートフォリオ理論に基づき、リスク管理を考慮した戦略的判断を記述できている。 c: 市場の不確実性に対して、多角的な情報分析を行い、粘り強く運用の改善を試みている。	学習ワーク等	レポート等の自己表現課題	取り組み姿勢の観察
	ビジネス実践	・グループを編成し、屋台・模擬店を企画・運営する。 ・企画書作成(コンセプト、ターゲット、メニュー)。 ・材料の調達と予算管理(原価率、人件費、諸経費の算出)。 ・販売活動(接客、プロモーション)。 ・最終損益計算と運営改善の反省会。	a: 損益分岐点分析を用いて、目標利益達成に必要な販売目標を論理的に算出できている。 b: 企画書において、他店との差別化戦略やプロモーション案を、市場調査に基づいて具体化できている。 c: チームの運営を俯瞰し、円滑な実施のために自発的な調整や改善提案を行っている。	学習ワーク等	レポート等の自己表現課題	取り組み姿勢の観察
	キャリアと自立	・関心のある職業のリサーチと職業体験(職場見学・短期インターンシップ等)。 ・「屋台運営」で得た経験を、リサーチした職業に置き換えて分析する(例:原価率と給与の関係)。 ・将来の生活費や貯蓄目標を設定するライフプランニングを作成し、経済的自立に向けた具体的行動計画を立てる。	a: 職業リサーチにおいて、税制や社会保険が手取り収入に与える影響を整理できている。 b: ライフプランニングにおいて、30 代以降のライフイベントを見据えた中長期的な資金計画を表現できている。 c: 職業体験を通じ、社会における企業の役割と自身の貢献の在り方について深く考察できている。	レポート等の自己表現課題	レポート等の自己表現課題	取り組み姿勢の観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度